

## 新しい高齢者移動サービスについて

**(質問)** 高齢化社会の中、高齢者の方々は、適切な医療を受けるため、買い物をするため、あるいは文化施設・温泉施設などに行き人との交流をするために移動手段は不可欠なものであり、フレイルの予防にもつながる。豊明市の取り組みは、高齢者の利便性が良く、民間企業とタクシー業者がプロジェクトを運営

しており、高齢者目線でシステムを構築している。行政側も財政的負担がなく、市民サービスを提供できる点で非常に良い取り組みと考えるが、本市も導入してはどうか。

**(答弁)** 本市の高齢化率は、2020年には約25%となり、超高齢化社会を迎える。高齢者の移動手段の確保、整備は喫緊の課題と認識している。豊明市の民間企業との共同によるシステムは大変参考になり、事業実施の経緯と今後の展開を、視察も含め調査研究する。

## 少子高齢化に伴う学校教育の在り方

**(質問)** 過小規模校対策について、学校規模適正化における本市の小学校の現状と今後の見込み、また、取り組みを進めるに当たっての基本的な考え方と今後の方向性を問う。

**(答弁)** 平成30年5月1日現在、小学校全30校のうち適正規模校14校、大規模校4校、小規模校12校、複式学級がある過小規模校0

校となっている。今後20年間の児童生徒数の推計では、2024年度から2025年度にかけて過小規模校の発生が予測され、早急な対応が必要である。学校規模適正化の取り組みは、行政が一方向的に進めるのではなく、保護者や地域の方と一緒に学校の在り方を検討し、今後は、複式学級の発生が予想される小学校を含む中学校区の保護者や地域の方を対象とした説明会の開催や、アンケート調査の実施を検討していきたい。

**その他の質問**○一般廃棄物処理施設への受け入れについて

## 台風21号への対応と改善策について

**(質問)** 平成30年9月の台風21号は、本市でも延べ6万戸に及ぶ大停電をもたらした。特に高齢者福祉施設では、入所者の安全を第一に職員の皆さんが懸命に対応に当たったが、復旧がもう少し遅れたら命にかかわる可能性もあったと聞く。健康福祉部・災害対策本部における大規模災害を想定した今後の改善策は。

**(答弁)** 健康福祉部としては、鈴鹿地区老人福祉施設協会と引き続き連携を深めるとともに、物資や情報など、施設間での調整機能を果たすことができるよう体制構築を検討する。危機管理部としては、災害対策本部運営要領の地震編の策定に加え、対策班ごとの時系列の行動計画表を作成する。特に、避難所運営に当たる「救助施設班」を再編成するとともに、支援物資を避難所に配送する「物資担当班」、ならびに災害時要援護者に対応する「福祉医療班」を創設して、さらなる機能強化を図る。

## 途切れのない発達障害支援について

**(質問)** 途切れのない発達障がい児への支援には教育現場での体制づくりが急務であるが、遅れている。特別支援教育コーディネーターの機能、「すずかっ子支援ファイル」の充実などとともに、学習支援員の増強のための研修や登録制度の実施、療育センターとの連携強化が必要ではないか。さらに、支援体制づく

りのために、官民連携のプロジェクト会議を発足するべきではないか。

**(答弁)** 途切れのない発達障がい児支援に必要な教育現場での役割分担の明確化を図り、関係各課、療育センターとの連携を強化するとともに、「すずかっ子支援ファイル」のさらなる活用にも取り組み、支援体制を充実させる。学習支援員に対する研修を実施するとともに、研修会や広報活動を通じ、人材確保に努める。さらに、これらを総合的に進めるため、来年度にプロジェクト会議を発足させる。